

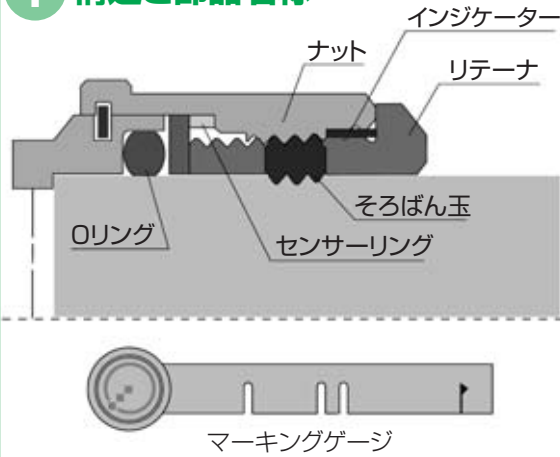


アバカス継手 施工要領

ABACUS®

13Su ~ 60Su

1 構造と部品名称



2 管の切断

バンドソー、メタルソー、ローラーカッターなどで管に直角に切断してください。

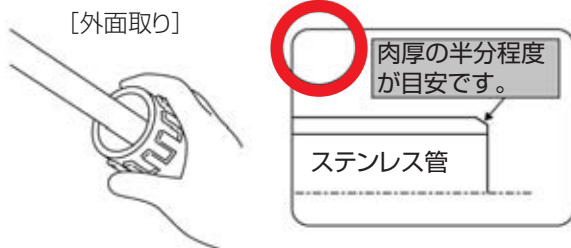


管の端部100mm 範囲は傷、変形、異物の付着が無いことを確認してください。

⊘ 高速砥石切断、溶断は禁止です。

3 管の面取り

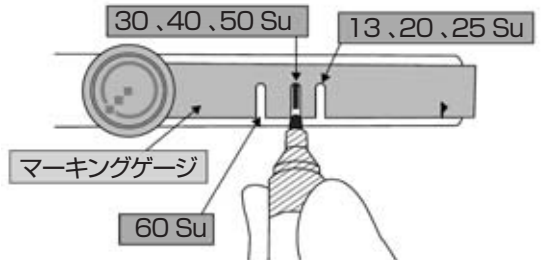
- ① 外面取り/リーマやヤスリ等で0.5C 程度の面取りを行ってください。
- ② 内面取り/内面のカエリを除去してください。



⚠ 注意 外面取りが無い場合、パッキンを損傷したり、差込不足を起し、漏水発生の恐れがあります。

4 マーキング (標線記入) **重要**

マーキングゲージを使用し、管に差し込み標線を必ず記入してください。



サイズ (Su)	13, 20, 25	30, 40, 50	60
標線位置	管端から 43mm	管端から 46mm	管端から 70mm

5 継手の確認事項

リテーナ：
正しくセットされていること。^{注1)}
ソロボン玉が脱落していないこと。^{注2)}
(13Su ~ 30Su は4個, 40Su ~ 60Su は6個)

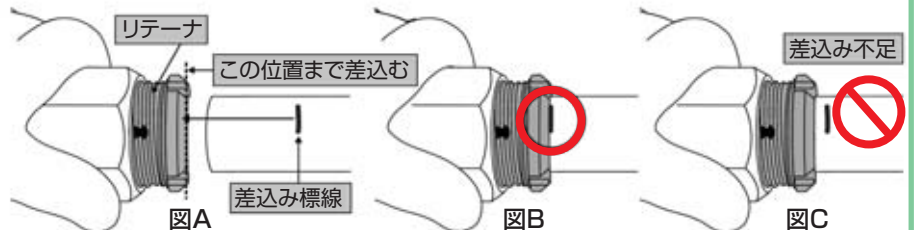
継手内部：
Oリングに傷がないこと。
異物などが付着していないこと。

⚠ 注意 センサーリングは施工不具合検知の部品です。手をふれないでください。

注1): リテーナが斜めになっている場合は、リテーナを外して、正しくねじ込み直してください。
注2): 脱落の場合はリテーナを新品に交換してください。

6 管の差込み

- ① 継手のリテーナを外さずに管は真っ直ぐに差し込みしてください。
- ② 標線が隠れるまで、完全に差し込みしてください。(図B 参照)



⊘ リテーナを外しての差し込みは禁止です。センサーリングを押し込み、機能障害の恐れがあります。

⚠ 注意

- 斜め差し込みはOリングを損傷し、漏れの恐れがあります。
- 管が継手に差し込めない場合は、リテーナを少し、ねじ戻してください。

！ 施工前に必ずお読みください。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性、及び物的損害の発生が想定される場合。



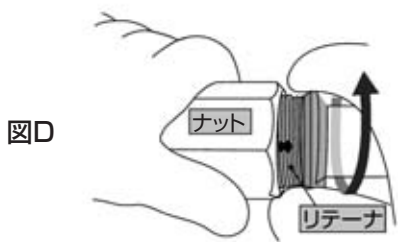
禁止

取扱いを誤った場合に、所定の機能が発揮されず、トラブルの発生が想定される場合

7 手締め、ナット締め込み

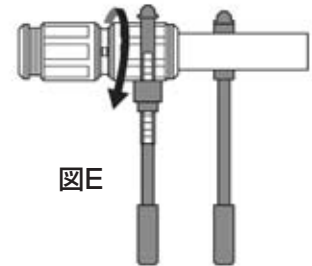
- ①ナットを掴み、リテーナを矢印の方向に手締めしてください。(図D 参照)
- ②続けて管とナットにレンチを掛けて、ナットを矢印の方向にピンクのインジケータが見えなくなるまで締め込みしてください。(図E 参照)

- 手締め状態での放置はナット締め忘れにつながるため、厳禁です。
- インジケータが見えなくなったらナット1回転以内で止めてください。これ以上は締め込みしないでください。



図D

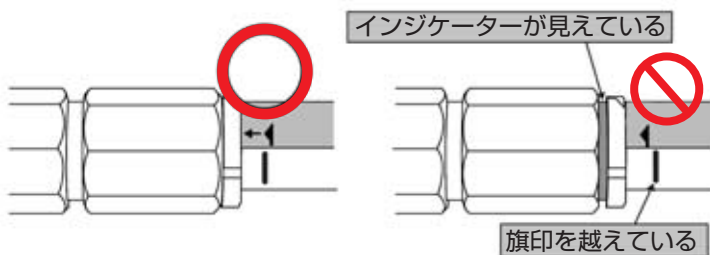
リテーナにパイプレンチを掛けることは禁止です。



図E

8 完了確認事項

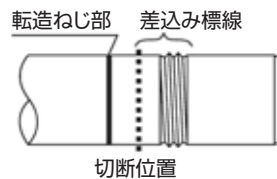
- ①ピンク色のインジケータが見えなくなっていること。
- ②標線の位置がマーキングゲージの旗印以内であること。



- ！ 旗印を越えている場合は、再施工してください。
- ！ インジケータが見えている場合はナットを増し締めしてください。

9 再施工の手順

- ①ナットを緩め、管を外してください。
- ②継手内部の異物は除去してください。
- ③リテーナを新品と交換してください。
- ④継手に異常がある場合は新品に交換してください。
- ⑤管の転造ねじ部を切断してください。(下図参照)
- ⑥切断以降、施工要領書に従い、施工してください。



転造ねじ部は、切断してください。

漏れを発見した場合の対処表

- ①ナット締め忘れの場合 (アバカス継手はナット締め忘れ箇所が漏れる構造になっています)

漏れ箇所の確認

配管内の圧力をゼロに落す (重要)

漏れ箇所の継手のナット締め付けをする

インジケータと標線で施工完了確認をする

水圧試験(空気圧試験)で漏れ箇所を再度確認する

- ②他の場合、再施工してください。
ナットを増し締めしても漏れを止めることは出来ません。



注意

なお、再施工時は、ナット締め忘れを検知する機能はありません。ご注意ください。

初めてご使用になる方は、「施工講習会」を実施していますので、ご相談ください。
施工講習受講者には、「受講証明証」が発行されます。